

今工会報

第42号

発行所

今工会事務局

〒557-0024

大阪市西成区出城1-1-6

大阪府立今宮工科高校内

電話 06(6631)0055~7番

編集発行人 吉田 信夫

時代を考える 今工会会長 野田 昌洋

平成から令和へ。年号が変わっての最初の会報の発行にあたって、今思うことは時代が大きく変わろうとしていることです。

今までとは考えられないスピードでの変化です。急激な温暖化しかり、AIしかり、働き方改革しかり、少子化しかり、金融システムしかりと。

今工もこの4月から、6クラス35人学級になり、機械科がとうとう1クラスになりました(電気科のみ2クラス)。少子化の影響です。今工も創立から105年が過ぎ、次の変化へ進んではいますが、少子化という現実はどう立ち

向かうのか、工科高校として何が望まれているのか、今考える必要が出てきているのではないのでしょうか。ぜひ一歩踏み込んでどうしていくのか、日本の将来を見据えた工科高校の在り方を強い意志を持って考えていただけたらと思います。

我々今工会としましても、わが母校が未来へ向かってどう動くのかただ見ているだけでいいのかと思う次第です。卒業しても愛着を持ち続ける



ことのできる母校であってほしいと願うばかりです。

今工会という今工卒業生の集まりは、変わらない母校愛と今工の卒業生として大いなる誇りを持ち母校を温かく見守り、援助を続けて行きたいと考えています。

今工と今工会のよりよい発展を願って。

ぜひ、総会にお越しく下さい。



2019年今工会総会 ご案内

10月26日(土) 11時開会

場所：道頓堀ホテル

会費：5000円

同封の返信はがきで、10月10日まで
にご返事お願い致します。



ご挨拶

学校長
駒井 知一



今工会会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は本校教育の充実・発展に格別のご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

私は、平成30年4月1日付けで着任いたしました駒井知一でございます。

校長としての重責を痛感しつつ、微力ではございますが、生徒・教職員一丸となって本校の伝統文化の継承・発展に努力してまいりたいと存じますので、どうぞよろしく願いいたします。

本校は、今年で創立105年目を迎えましたが、この間、卒業生は3万5千人を超え、わが国の産業発展を支え、本校が世に高い評価を得ておりますのも、卒業生の皆様のご支援ご厚情の賜物と衷心より感謝申し上げます。

さて、急激な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎えたわが国にあっては、一人ひとりが持続可能な社会の担い手として、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出

していくことが期待されています。

これまで、産業社会を支える人材を輩出してきた工業高校は、今後も社会の様々な情勢の変化に対応し、職業人として必要な力を身に付けた人材を育成するとともに、地域や産業社会の発展に貢献するために引き続き重要な役割を果たすことが求められています。

このことから、生徒たちが卒業後の生き方を実現する中で社会貢献へと円滑に移行できるよう、本校では「何をどのように学び、何ができるようになるのか」について深く考え、知識・技術をバランスよく身につけるための実践的な学びを進めてまいります。

今後も皆様には、引続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご活躍、今工会のますますのご発展を祈念しまして、ご挨拶とさせていただきます。

紹介



准校長(定時制
校長)渡邊幸彦

事務部長
濱本章義

2018年度生の進路状況

母校のいま・その1

今工会のみなさまには、平素よりご支援ご協力をいただきありがとうございます。

就職では、就職186名うち学校あっせん182名、公務員3名、職業能力開発施設等2名です。昨今の景気を反映して学校あっせんを希望した生徒182名に対して、求人数1046人で、求人倍率は約5.7倍となり一社目での内定率は約88%となりました。

進学では、4年制大学39名、高専・短期大学等4名、専門学校等21名、このうち4年制大学は、多くの生徒が推薦制度入試合格ですが、昨今の大学の定員厳格化により推薦枠の定員を絞り込む大学が増加し難易度も高くなってきています。入試制度改革により2020年入試から、これまでのセンター試験に代わり探求形の問題を取り入れた共通テストが導入され、入試環境は大きく変わろうとしています

今後も就職、進学ともに強い「今工」を目指し進路指導の充実に努めてまいります。

ロボカップジャパンオープン2019

今年は、和歌山での開催。「機械工作部」として大阪大会準優勝。関西大会では準優勝と3位の2機体で参加(9名)。3種目の中の19才以下サッカーチャレンジです。自立型ロボット各チーム2台で、ゴールにボールを入れる競技。24チーム100名近くが、メルボルン世界大会に向け競いました。結果は共に3勝2敗で11位と12位でしたが過去最高順位でした。ご支援ありがとうございます。



平成30年度会計決算報告

【一般会計】

1. 収入の部

項目	収入額 (円)
前年度繰越	21,733,124
会費収入	2,294,824
	全日制 1,912,000 (8000×239名)
	定時制 188,000 (29名)
	会費後納 194,824
銀行利息	0
	決算通帳のため利息なし
雑費収入	15,695
	記念誌代 学級費寄付等
	142,500
	今工会理事会会費収入
収入合計	24,186,143

[今工会周年記念事業基金]

収入	前年度繰越金	2,746,048
	利息	24
支出		0
差引金額	2,746,072	

令和元年度に繰越

[部活動振興会援助基金]

収入	繰越金	517,429
	銀行利息	4
	一般会計より	500,000
	収入合計	1,017,433
支出	陸上競技部 近畿予選大会支援	18,500
	日本拳法部 全国選手権大会支援	214,250
	陸上競技部 近畿高等学校ユース大会	19,000
	機械工作部 近畿大会	
	ロボカップジャパンオープン	71,664
	機械工作部 全国大会	
	ロボカップジャパンオープン	96,132
	支出合計	419,546

差引残高 597,887 令和元年度へ繰越

2. 支出の部

費目	項目	支出額(円)
庶務費	庶務費総計	551,196
	総会・幹事会費	287,330
	卒業生記念品等	192,000
	慶弔費	10,000
	庶務部費	61,866
編集費	編集費総計	0
	会報発送諸費	0
	会報発行諸費(会報代含)	0
	編集部費	0
事業費	事業費総計	897,912
	支部・クラス会補助費	41,512
	広報関係費	0
	部活振興費	500,000
	事業部費	356,400
会計費	会計費総計	1,836
	会計監査費	1,836
	会計部費	0
事務費	事務費総計	214,739
	事務局費	185,978
	企画室費	0
	調査・通信・交通費	28,761

費目小計 1,665,683
予備費 2,592,647

今工会館1階整備および空調設備入れ替え

支出合計 4,258,330

3. 差引残高

収入額	24,186,143
支出額	4,258,330
差引残高	19,927,813 令和元年へ繰越



平成31年3月卒業・幹事 全日制

M3A	日野祐作	山口凌平	A3	小幡ひかり	杉上 陸
M3B	芳村一樹	森本友斗	G3	休齋克哉	山田 蓮
E3A	飯村祥也	米田拓斗	T3	西分寛人	山下 諒
E3B	木内貴英	山本一磨			

定時制

3年制	恩田 就斗
	竹中 陸
4年制	鈴木 天典

平成30年3月卒業・幹事 全日制



M3A	今岡亮太	中井怜央
M3B	岡田 崇	河林 航
E3A	中辻英志	永井 輝
E3B	木下栄次郎	植川友貴
A3	高祖圭司	林田 雄
G3	金宮英幹	兵頭継一郎
T3	前 維人	橋本秀斗

幹事ごくろうさまです。ご都合が悪くなればクラスのどなたかに幹事をお願いし、ご連絡下さい。

定時制



3年制 後藤圭汰
山本十基也
4年制 西嶋英和



今宮戎神社に閩谷部会として

昭和34年建築科定時制卒 松浦清氏



一昨年の今工会総会で今宮戎神社との関わりをお聞きし、今回、今宮戎神社の社務所をお借りし、会報担当の安藤、大本、吉田でインタビューさせていただきました。

松浦氏のご自宅は、今宮戎神社から北20分ほどのNTT近く浪速区日本橋で、お父様

が徳島県東みよし町から大阪に出てこられて以来ずっとお住まいとのこと。

「家業の内装業がちょうど店舗改装をしている時でした。大学へ行くのにもお金がかかる、大学に行くより仕事を覚えて商売する方がと中学を出て家業の内装工事業『マツウラ陳列』を手伝い、技術を身につける今工の定時制へ入学しました」「学校へは自転車で通学しました。当時は建築科も2クラスありましたね。国語の清水先生が良い先生で一番印象に残っています」と今工時代のことを。

仕事も大いに繁盛され今宮戎神社の入口の玉垣に名前が刻まれています。昭和が終わる頃パブルもはじけ仕事も少なくなり、取得していた2級建築士と宅地建物取引士の免許を取得し、不動産業マツウラ株式会社に転業。いまでも現役で頑張っておられます。そして、近くの地域の氏神さん広田神社の総代をされ、町内会のリーダーとして、また業社の方々との交流を深めてこられました。さらに浪速区老人クラブ連合会の会計監査を担当されています。



こうした関係から、町会で作る閩谷部会代表として今宮戎神社に関わり、十日えびすに境内での福笹・福袋・絵馬などの販売や恵宝駕行列、大祓式(6月、12月に行う除災神事)、夏祭りなどさまざまな行事に1年中忙しくしておられます。

宮司さんと松浦さんから商都大阪のシンボリックなまつり事・十日えびすについて「今宮戎神社は、天照皇大神、事代主命(えべっさん)外

三神をお祭りし、その創建は、西暦600年と言われ、聖徳太子が四天王寺の建立に当たり、西方の守り神としてお祭りされました。江戸時代、十日戎への参道に設けられていた橋から戎橋と名付けられ、戎橋に仮設される戎舞台も古例を復活したもの。宵戎に江戸時代から雑喉場(ごこば)魚市場が雄雌一対の鯛を奉納し、大漁と商売繁盛祈願するのが吉例で、今は木津市場の人々によって奉納されています。福娘さんは50名(内10名が外国人)で、3000名以上の応募者の中から選ばれます。

毎年十日戎には、100万人以上の参拝者がある」と話が尽きません。

境内でえべっさんのとき販売する建屋の前の玉垣にもマツウラ株式会社松浦清



えべっさんと福娘さんと

の名が刻まれています。伝統あるえべっさんと関わっておられる今工卒業生がおられたこと、皆さんに御利益がありますように。

富士精版印刷KKで頑張っています

昭和51年印刷工業科卒 山崎重次氏

剣道の強豪校進学を断念し今工印刷科を受験したのは、5才上の兄も印刷科卒だったからです。向上心も持たず日々を過ごした高校時代でしたが、40名が3年間同じクラスで学び、いろんな事を協力して成し遂げたことは貴重な財産となっています。



剣道部のある会社に10年間勤めた後、兄の口利きで富士精版印刷に入社しました。営業部に配属され、顧客のニーズを捉えるためにいろいろな勉強をしました。創業者の石川会長は、今工印刷科を評価されています。後輩が3人入社しましたが将来性を感じてか残念ながら退職されました。常務取締役として魅力ある会社作りが使命だと思っています。

土台を築いてくれた今工への感謝と共に、益々の発展をお祈りしています。

鉄伝統製造『佐助』第5代を継ぐ

機械科昭和44年卒業 平川 康弘氏

常任理事の宮崎太一氏が、テレビで堺の伝統工芸士として同級生が紹介されているのを見たお知らせしてくれました。二人で訪問し実際の仕事を見せてもらい、いろいろお話を伺いました。私は、彼らが在学中「金属材料」を教えたようです(副会長：吉田)。

堺の北清水町、浅香山駅から5分ばかりにある旧家。玄關脇には『佐助』の創業時からの看板がかかり、中へ入ると土間に現在製作している鉄や包丁の展示ケースが。部屋にはいろいろがあり、伝統を受け継いでいることを思わせる落ち着いた雰囲気。



作業場を見せてもらう。岩手県から取り寄せている松炭を使い、「ふいご」による昔のままの鍛冶屋のたたずまい。全て完成まで自分で行なうので、普通の家の中に炉や研場、プレス、旋盤など数々の機械がぎっしり。

堺は、5世紀前半、仁徳天皇陵造営の大土木工事で、鋤・鍬(すき・くわ)などの農具づくりが根付き、刃物の産地として「鍛冶」と深く結びついていました。やがて、室町時代に入り、ポルトガル船が種子島に漂着し、火縄銃やタバコが伝来します。そして海を挟んで関わりの深い堺でも鉄砲や包丁の製造が盛んに行なわれるようになりました。

「平川家は、その頃から江戸時代にかけて火縄銃の製造・土佐藩の鉄砲、槍や弓の修理・物産の取り引きなど御用商・「住吉屋」という廻船問屋を営んできました。江戸末期に入って近代化と西洋化の波が訪れると、当主の定治郎(17代目)は、著しく変化する世の情勢を見据え、実用的な物づくりをと、鉄砲製造技術を活かせる鉄の製造を決意し、当時新しい構想で見事な鉄作りをしていた種子島へ渡り、種子鉄づくりの研鑽を重ねます。そして1867年(慶応3年)に『佐助』を創業します。これが『佐助』の始まりです。以後、

佐吉・藤一・佐一と続きます」と歴史を。

「父が小学校2年の時に亡くなり、職人と兄(佐一)が引き継ぎ、私は中学校のころからこの仕事を手伝いました。今工機械科に進学し、卒業後知り合いの紹介で一年間シマノ工業に勤めましたが、昭和48年に5代目を継ぐことになりました。50才から5年間刀鍛冶に弟子入りし、日本の鍛造技術を学びました」と。



『佐助』の刃の特徴は、2代目が開発した、2枚の刃がプロペラのようなねじれのある構造で、切るとき刃が一点で接触し、切れ味が良いこと、刃になる鋼が両面に繋がっていることで、丈夫でまた研げば刃が短くなくても使えることです」と『佐助』が作った刃物に誇りを持っておられることがひしひしと感じられました。

しかし、安い鉄が工場で大量に安く作られる時代となり、手作りの鉄が売れなくなってきたようです。

奥さんは「主人は作ることに一生懸命で口べたですが、彼の作った鉄や包丁に私が惚れ込みました」と。さまざまな技術的なことも含め奥さんがいろいろ説明してくださいましたが、「苦境を乗り越えるため、千葉の幕張メッセに70万円の出店費用を工面し出店したり、工芸としての価値を高めるため金象嵌をとりいれたり、柄を乾漆塗り仕上げにしたり、自費でベルサイユ市で個展を開いたり、またホームページを立ち上げ紹介したりしました」と、二人三脚で頑張っただけ「今は注文して1年待ちというところまでできました」と。そして「息子がいま修行中です」と明るく話されていました。



家庭画報大賞を受賞した象嵌と乾漆塗りを施した花鉄

浜寺公園駅舎保存活動の会

昭和29年電気科卒 田中 正史氏

今工3年間は、軟式テニス部で、マッカーサー杯等の試合に出たこと、先生方にも出てもらい校内軟式テニス大会を開催したことなど思い出されます。

卒業後、大阪工業大学・電気工学科に進み、椿本チェーンに入社、コンペア事業本部に所属し、系列会社勤務も含め40年間マテハン設備の据付工事、メンテナンス業務を担当してきました。技術も日進月歩、制御技術もコンピュータを導入した時期でした。若い頃は長期出張で、苦勞もありましたが、やりがいのある仕事でした。現在もクラス会開いています。

63才で退職後、地域で自治連合の



横断膜を持つ黒い服が私

役員としてお手伝い、毎年5月の第3日曜日に開催する浜寺ローズカーニバル(約4万人来場)にも関わっています。

さて、浜寺公園駅の駅舎は、明治40年に竣工、日本最古の私鉄の駅で辰野金吾氏の設計した建造物として、また優雅なたたずまいが評価され、国の登録有形文化財として認定されています。南海本線立体交差事業が決まり、平成19年堺市、南海電鉄、地元住民などで協議し保存活用することになり、29年30m南西に移設、いま活用事業をしています。9年後には高架駅が出来、元の位置に戻され新駅の玄関口として新たな活用事業が行なわれます。現在はカフェ、ライブラリー、ギャラリー、イベントホールとして運用しています。この保存活動が町の発展、大阪南部地域の活性化に役立つことを願っています。お近くに来られる機会がありましたらぜひ。



京大で研究と教員を

昭和61年機械科卒 橋田 昌樹氏

今工時代は野球部に所属し和田充司監督、木村宇一コーチの指導のもと毎日練習に明け暮れていました。

1986年機械科を卒業し、大学では電気工学を、大学院では電磁エネルギー工学を学び、1996年に博士(工学)を取得しました。現在は京都大学化学研究所に勤め理学研究科の教員として大学院生(理学)を指導し学界や産業界で活躍する人材を育成しています。専門は物理学でレーザー加工の物理解明と材料表面への新機能付与に関する研究をしています。



研究の現場では毎日が課題解決の連続です。世の中にはない新しい計測器や装置を開発するため特殊な部品を旋盤やフライス盤で迅速に作りあげ電気回路を組んで制御することが求められ、高校時代を含め若い時代に学んだモノづくりが研究の現場でいきています。その地道な努力のおかげで2018年9月文部科学省の光・量子飛躍フラグシッププログラム基礎基盤研究に採択[1]され、代表者としてレーザー微細加工に関する研究について10年間(2027年まで)取り組む機会を得ました。

研究の現場では毎日が課題解決の連続です。世の中にはない新しい計測器や装置を開発するため特殊な部品を旋盤やフライス盤で迅速に作りあげ電気回路を組んで制御することが求められ、高校時代を含め若い時代に学んだモノ

づくりが研究の現場でいきています。その地道な努力のおかげで2018年9月文部科学省の光・量子飛躍フラグシッププログラム基礎基盤研究に採択[1]され、代表者としてレーザー微細加工に関する研究について10年間(2027年まで)取り組む機会を得ました。

この課題では超短パルスレーザーを用いており、この装置には2018年ノーベル物理学賞を受賞したムル博士とストリ克蘭博士の提案したCPA技術が組み込まれています[2]。超短パルスレーザーは次世代レーザー加工にとどまらずレーザー核融合や次世代重粒子線がん治療のキーテクノロジーとなっており、国内では量子メスの小形加速技術として開発が進められています。

今工を卒業された皆様は、モノづくりの現場でエンジニアとして活躍されている人が多いと思います。本記事を通してレーザー加工というキーワードで「新しいモノづくり」について新たな交流ができれば幸いです。

[1]<https://www.jst.go.jp/stpp/q-leap/pdf/zisedailaser.pdf> [2]朝日新聞科学面2018年10月4日19ページ。

クラス仲間はいつまでも

昭和37年機械科卒 福永 宣道 氏

クラス会を毎年。卒業後56年目の昨年は約3分の1が集まる。クラス会がこんなに惹きつけるのは、一番良い青春時代と一緒に過ごした仲間となんのこだわりもなく話し合えるからだろう。

それに各自、成長期を支えた一員として仕事への自負心を確認できるからかも。クラスの大半は会社の中堅技術者として、多大の貢献をして定年まで勤め上げたから。中には家業を継いだもの、特許事務所や店を開き経営者になった者、共産党の県委員長になった者、学会で活躍し将来を期待され夭折した者と多彩だ。

中でも異色なのは私か。卒業4年後工学部、卒業後教師に(今工にも1年勤務)。40才で医学部入学、研究者希望も夢叶わず内科医として各地で勤務。研究の夢を追って65才で早稲田大

自宅の敷地にミニ鉄道・イベントを

昭和47年電気科卒 森本 昌明 氏

今工時代から趣味が鉄道で、今工祭で鉄道写真展をしたことを思い出します。

趣味と言っても、世間一般のソフト的趣味ではなく、ずっとハードでした。列車を見ては屋根上と床下機器ばかり眺めていました。仕事も鉄道機器会社で自動改札機から線路、車両と全般にかかわってきましたが14年ほど前に股関節の病気で人工の骨になり、リストラされ以後敷地でミニ鉄道(紀南鉄道株式会社)を作りました。

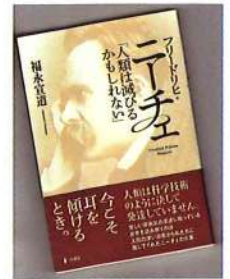


自分で遊んでばかりではもったいないと思い、そのうちイベント関係の声がかかり、無償、有償でイベント列車を出張で走らせています。敷地の鉄道では日々メンテナンスでこの春からは枕木の防腐処理に大忙しです。ぜひお越し下さい。

(橋本市東家 1085-1 090-3928-9571)

大学院ドイツ語・ドイツ文学へ。修了後勤務医の傍ら執筆活動を楽しんでいる。2016年「フリート・ニーチェ『人類は滅びるかも知れない』」を出版。

今工時代は自由に過ごさせていただきありがとうございます。後輩たちも、将来いろんな選択枝が。決めつけず・悲観せず頑張ってください。



平成30年同窓会

自転車団体東京五輪に向け活動中

昭和54年機械科卒 高橋 博 氏

もう40年も前の話となりました。当時乗り始めたサイクリング車に端を発して機械に興味を持ったのも入学のきっかけでもありました。入学してからは、自転車クラブで部品づくりなどで大変遊ばせてもらいましたが、今もその延長という感じで過ごさせていただいています。これも当時、藤井先生や松村先生、井上先生をはじめとする教師陣や先輩、後輩のお陰と感謝しています。

年を取ってからは、自転車連盟の役員をさせていただいて、選手団派遣や大会運営などに関わらせていただきましたが、最近では2020年東京オリンピックが成功するよう組織委員会で準備に忙しくしています。学校での経験も活かせる場所もあり、素晴らしい大会を世界の人と分かち合えることを楽しみにしています。



2018 アジア大会優勝者と

今工のあゆみ・資料室



リニューアルなった 今工会館

「今工のあゆみ・資料室」

2018年6月から7月、昭和35年建築科定時制卒業の三進金属KK会長・新井正準氏のご厚意で、資料室の展示機材・照明をリニューアルしていただきました。

この機会に、会員の皆さまのご活躍の展示コーナーも設けました。なお一層充実させていきたいと思っております。ぜひ、お立ち寄りいただきご覧下さい。なお、文化祭には全定とも資料室を今工会として開放しています。



卒業生の実績コーナー

資料室のリニューアルでご協力いただいた 新井 正準 氏のご紹介

新井氏は、昭和35年建築科定時制を卒業され1964年(昭和39年)鋼板のシャーリング加工・鋼材販売で創業され、翌年始めたスチール棚板製造が好調で1967年工場を新設し三進金属株式会社。その後大阪と奈良に工場を作られ、1980



年忠岡町に工場を集約され、全国に販売網を展開されます。そして1989年には東の生産拠点として福島県に工場を建設されました。

2018年7月感謝状贈呈式で野田会長と(資料室で)

福島工場は、「美しい自然に恵まれたものづくりの理想郷」をめざし、周囲を緑化し、廃液は内部循環システムを採用し廃液ゼロに。緑化推進運動功労者内閣総理大臣賞表彰を受けてられています。社員食堂は地元住民のコミュニティ施設に開放されています。

現在、スチールラック製造の中堅企業として従業員700名近い企業に成長されています。

また、今工会常任理事を担当して頂いています。



福島工場

陸上部・棒高跳

近年近畿大会への出場が続いています。たくさんの方からのご支援・ご声援に感謝しております。

生徒たちの成長を感じながら、結果を残すことの難しさを痛感しております。平成29年度近畿インターハイ・建築系3年中村龍史くん第2位 4m 80cm。30年度は1年生で最高4位。

今年度、棒高跳びの先輩・平成12年機械卒の千田直裕氏が体育教師としてこられ顧問として加わっていただきました。顧問 細江優輔(平成14年電気卒・今工会会計)



母校のいま・その2

日本拳法部

「第63回全国高等学校日本拳法選手権大会」出場に際しましては、多大なるご支援と温かいご声援を賜り、本当に有難うございました。試合の結果は、団体競技の部では1回戦で2対3で敗れました。個人の部では3年生の友滝くん3回戦敗退でベスト32。小村くん初戦敗退、2年生の須田くんと細田くん2回戦敗退。大変悔しい試合結果でしたが、参加選手全員が日々の練習成果を発揮し、最後まで戦い抜くことができました。部員21名さらに努力いたします。